

御坂山塊を源とする金川の流域両岸には、多くの古墳が残っています。この付近に見られる古墳は、今から約1400年前に造られた横穴式石室というタイプの円形の古墳で、その大きさは小さいもので直径数メートル、大きいものでも直径25メートルくらいで、あまり巨大な墓というイメージはありません。

笛吹市八代町岡にある銚子塚などのような巨大な古墳は地域を治めていた勢力の長の墓と思われるますが、金川両岸に見られる古墳は壊されてしまったものを含めると数百基あったと思われます。これらは個人の墓ではなく、発掘すると複数分の人骨が出土します。つまり、これらの古墳は〇〇家の墓なのです。

笛吹市御坂町の金川工業団地では36基の古墳が調査されました。そのほとんどが長い年月の間に壊されていますが、そのなかには当時の古墳の造り方が観察できるものがありました。

この時期の古墳は、石室の天井に載せる巨大な石の重さで全体のバランスをとり、安定して



発掘中の古墳

訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第17回

金川中流域の古墳

いますが、この天井石が外されると途端に、弱く崩れやすくなってしまう。これら石室材の石には、長い年月の間に忘れ去られ荒れ果ててしまった古墳から取り外され、小川を渡る橋に転用されたり、畑の石垣に転用されたりしているものが見られます。

さて、笛吹市全域に目を向けると、ほぼ完全な姿を残すこの時期の古墳が多く見られます。中央自動車道釈迦堂サービスエリア周辺の千米寺古墳群の中には数基ほぼ完全な姿を残す古墳がありますし、金川の森には珍しい八角形の古墳があります。春日居町の大蔵経寺トンネル出口付近には多くの副葬品を出土した平林2号墳が移築され復元されています。御坂町井之上にある姥塚は横穴式石室の古墳としては東日本最大といわれています。そして、これらの古墳の周辺には大小多くの古墳があったことがわかっています。

ほかに笛吹市にはたくさん古墳があったことがわかっています。地名と住宅地図をヒン

トに古墳をさがしてみませんか。あなたのまわりに、〇〇塚という小字がありませんか。もしあったなら住宅地図で筆境の形を見てください。四角い区画のなかに丸みをおびた線で囲まれた小さな土地があったなら、現地を観察してみてください。そこには古墳があるかもしれません。

笛吹市教育委員会 文化財課



調査前の古墳